

木村泰賢君著印度六派哲學ノ授賞審査要旨

本書ハ印度婆羅門系統ニ屬スル所謂六派哲學ノ根本的研究ヲ目的トシタルモノニシテソノ内容ハ古吠陀ノ形式的方面ヲ主トセル「ミーマーンサー」派ヲ以テ始トシ數論派、瑜伽派、勝論派、正理派之ニ繼ギ古吠陀ノ精神的方面ヲ主トシ印度哲學ノ上乘ト稱セラル、「ヴェーダーンタ」派ヲ以テ結ビ終リニ數論派ノ補足トシテ三德論ノ一篇ヲ附加セリ。別ニ本書ノ參考篇トシテ著者ノ翻譯研究ニ成レル數篇即チ印度論理學史五卷、佛教論理史二卷、「マインドックヤ」獨研究并ニ本文譯一篇印度主意識發達史一篇、「ヴェーダーンタ」ト「プラトーン」トノ比較研究一篇アリ。是レ六派哲學ノ研究ニ要スル資料ナリト雖ソノ多量ナルヲ以テ本書刊身ノ際ニハ殊ニ之ヲ省略シタルモノナリ。

本書ハ各派ノ根本材料ニ據レル獨立ノ研究ニシテ著者自身モ言ヘル如ク他學者ノ意見ハ無批判的ニ之ヲ採録スル如キコトナキヲ期シソノ新解釋ヲ施シ新問題ヲ提供セルコト亦少シトセズ。ソノ研究ノ順序叙述ノ方法ニ於テモ用意ノ周到ナルヲ見ル。本書中著者ガ最モ意ヲ用ヒタリト見ユルハ數論派正理派、「ヴェーダーンタ」派ナリトス。今若シ六派ヲ三類ニ配合セバ實修(瑜伽派)ヨリモ理論(數論派)、物理(勝論派)ヨリモ論理(正理派)、行品(ミーマーンサー)派)ヨリモ智品(ヴェーダーンタ)派)ガ哲學的價値多ク研究ノ興味モ之ニ向フベキヲ以テ著者ガ此三門ニ一層ノ力ヲ致セルハ最モ適當ナリトス。各派ノ發達史ヲ叙スルニ當リテモ往々獨得ノ主張ヲ公ニセシモノアリ。茲ニ二三ノ例

ヲ擧ゲンニ數論派ハ非婆羅門主義ノ學派トシテ起リタリト論セラレ正依ノ經中ニモ之ヲ肯定スベキ成文アルニ係ラズ著者ハ數論ノ四特質(反吠陀思想、二元思想、物質的傾向、進化的傾向)ニ就キノ本質ヨリ論ズレバ明ニ吠陀正系思想ノ繼承ナルコトヲ明示セリ。コノ補足トシテ本書ノ終リニ附シタル三德論ハ殊ニ三特性ノ發達史ノ研究タル外數論ノ系統問題ニ於テ逸ス可ラザル好文字トス。ソノ連續トシテ數論思想發達ノ階梯ヲ論シ梨俱吠陀ノ無有讚歌ヲ第一原型トシ梵書ノ金胎說ヲ第二世界的着色トシ奧義書ノ二元主義ヲ第三哲學的成立トシ上記四特質モ此時ニ完成セリトシ經書時代ニ於ケル二元二十五諦ノ統制ヲ第四學派の成立ナリトセリ。是レ著者ガ始メテ唱ヘタル所ニシテ憑據アル見地ニ立テルモノナリトス。

又正理派本經ノ研究ニ於テモ、著者ノ着眼往々一頭地ヲ拔キタル所アリ。殊ニヴァーッサーヤナ論師ノ原註ヲ譯シ、又、ヴィシュワナータノ註書ノ如キモノノ前人未譯ノ部分ヲモ譯成參照シタル所アリ。因明學ノ著少カラズト雖、廻諍論、方便心論、如實論等ト尼夜耶本經トノ關係ヲ究メタルハ著者ヲ以テ始トス。因明ノ形式論、誤謬論ニ於テハ解說ソノ細ヲ極ム。又ヴェーダーンタ「派ハ印度正系思想ノ總合ニシテソノ叙述ハ學者ノ最モ難シトスル所ナリ。著者ハ序文ニ於テ言ヘル如クシヤンカラ師說ヲ通ジテ「バーダラーヤナ」ノ本經ヲ見ルノ常套ヲ避ケ此派ノ發達ヲ第一、「バーダラーヤナ」本經ノ思想、第二、「ガウダバータ」ノ「マインドゥクヤ」偈ノ思想、第三、シヤンカラ師(第九世紀)釋ノ思想、第四、ラーマーヌジャ師(第十二世紀)釋ノ思想、第五、サダーナダ師(第十六世

紀)抄ノ思想ノ五段ニ分チテ一篇ノ「ヴェーダーンタ」思想發達史ヲ得ントセリ。此派煩鎖ノ思想ヲ此方法ニ依リテ比較的簡潔ニ叙シ了リタルハソノ苦心ノ存スル所ナルベシ。

他ノ三派ハ内容ノ簡單ナルニ應ジテ叙述却テ難ク乾燥無味ニ失スル恐レアルニモ拘ハラズ専門的研究ノ方法ヲ離レズ他學派トノ平衡ヲ失ハズシテ六派哲學ノ全豹ヲ畫キ相當ノ結果ヲ得タルハ著者研究進歩ノ表示ナリト謂フベシ。

本書中瑣末ノ點ニ就イテハ多少批難スベキ所ナキニアラズト雖モ研究範圍ノ廣大ナル本書ノ如キモノニ於テハ蓋シ免ル能ハザル所ナラン

歐洲ノ學者中、印度六派哲學ニ就イテ著述セシ者一二之ナキニ非ズト雖支那譯ノ藏經ヲ參考セシモノニ非ズ。著者ハ固ヨリ梵本ヲ研究シ支那譯ノ藏經ハ勿論東西兩洋ノ學者ノ著書ヲモ參考セリ。是レ其獨得ノ長處ニシテ又實ニ大ニ多トスベキ所ナリ。